

あなたも1日議員会議録



令和4年10月2日（金）

あなたも1日議員会議録

○開議期日 令和4年10月2日 午前9時

○会議の場所 さつま町役場 議会議事堂

○当日の議長 上別府 ユキ（町女性団体連絡協議会）

○当日の議員（質問者11名）

- 1番 新留 蒼大（柏原小学校6年）
- 2番 川寄 優真（求名小学校6年）
- 3番 新田 健琉（求名小学校6年）
- 4番 満園 美咲（求名小学校6年）
- 5番 中根 あこ（鶴田小学校6年）
- 6番 堀之内 楽（盈進小学校6年）
- 7番 堀之内 義人（盈進小学校6年）
- 8番 本田 楓真（盈進小学校6年）
- 9番 井上 志乃（宮之城中学校3年）
- 10番 田島 有来（宮之城中学校3年）
- 11番 東 千鶴子（一般）

○出席した町当局

町長 上野 俊市
副町長 高田 真
教育長 原園 修二
総務課長 角 茂樹
企画政策課長 小野原 和人
町民環境課長 松山 和久
保健福祉課長 甫立 光治
保健総括監 濱田 清美
建設課長 原田 健二

商工観光PR課長 中村 英美
ふるさと振興課長 米丸 鉄男
子ども支援課長 藤園 育美
教育総務課長 大平 誠
学校教育課長 岩脇 勝広
社会教育課長 永江 寿好
学校給食センター所長 満園 誠

○出席した議会事務局職員

議会事務局長 早崎 行宏
議事係長 西 浩司
議事係主任 杉元 大輔

開議 午前9時

○上別府議長

おはようございます。

ただいまから、「あなたも一日議員」を開会いたします。

本日進行をいたします、議長の上別府ユキです。皆さんと和やかに楽しく進行していきたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

開会にあたり、さつま町女性団体連絡協議会を代表して会長の横山より子が御挨拶申し上げます。

【 横山 より子 会長 登壇 】

○横山会長

皆様、おはようございます。緊張されていますか。私もとっても緊張しております。

それでは、今日の「あなたも一日議員」の開催にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

まずは、きょう一日議員になって質問をしてくださる12名の方々、本当にありがとうございます。特に小中学生10名につきましては、学校の先生方、保護者の方々に御協力いただき本当に感謝しております。そして、この企画に快く応じてくださって準備を進めてくださった、町長はじめ教育長、町役場の職員の方々にも本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

令和元年（平成30年4月24日～令和3年4月29日まで）、この町には女性議員が一人もいませんでしたので、女性議会というのを開催しました。すると、令和3年には、なんと2名の女性議員が誕生しました。今回は少し年齢を広げ、幅広い年齢の方々とこの町のことについてお話してみたいと思い、一日議員を計画してみました。きょうは自分の考えや疑問を発表して、それにきちんと答えてもらえるという経験を通して、議会や町のことに興味を持って、将来、議員や町長になる方がこの中から出てくださればいいなと思っております。きょうはそれを楽しみにしています。

これで、私の挨拶といたします。緊張していると思いますが、マスクの下は笑顔で、どうか楽しく町長や教育長はじめたくさんの方々とお話してくださればいいなと思っております。今日は本当にありがとうございます。

【 横山 より子 会長 降壇 】

○上別府議長

次に、さつま町長より御挨拶がございます。

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

皆さん、改めましておはようございます。

さつま町長の上野俊市でございます。私の声は、防災行政無線で幾度となく聞かれたことはあるかと思いますが、実物が今ここに立っております。こういう顔でございますので、きょうはよろしくお願いいたします。決して、怖い人物ではございませんので、気を楽しんでほしいと思います。

今回こういう企画をしていただきました、さつま町女性団体連絡協議会の皆様におかれましては、日頃から、男女共同参画社会並びに、女性活躍社会の実現のため、また地域社会の発展など多方面にわたり、御尽力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

なかでも、町長と語る会や女性大会また、先ほど御紹介ありましたけれども、令和元年度に開催されました女性議会などを通じまして、町政に対する女性の視点での貴重な御意見や御提案もいただいておりますことに重ねて感謝申し上げます。

さて今回は、新たな試みとしまして、「あなたも一日議員」の開催を企画され、小学生から一般までの幅広い年代の方々から御意見を頂戴する機会を設けていただきましたことは、大変、有意義な取組であると思っておりますのでございます。

本日は、町内の小学生8名、中学生2名、一般の方2名、お一人は本日、急用で御欠席となっておりますのでございますけれども、多くの方々から御質問や御意見を直接お伺いしますけれども、このことがこれから先のさつま町の未来を担っていただく皆さんと一緒に、改めてまちづくりを考える機会となり、さらに多くの町民の皆さんが、まちづくりへの関心を高めていただくきっかけになればと期待するところでございます。私は、いつもの議会以上に皆さんと同様に緊張感がございます。皆さんは真剣な中にも力を抜いて、この時を楽しんでいただければと思います。

また、本日発言をいただけなかった会員の方々や傍聴者の皆様につきましては、今月、来月20の区公民館に足を運びまして、まちづくり座談会ということで、直接地域の皆様方の声を聞く場を設けているところでございます。お住いの公民館の開催の折には是非とも足を運んで、まちづくり、町政についての御意見などをいただければと思っておりますのでございます。

最後に本日の「あなたも一日議員」が、行政はもとより御参加の皆様の、また傍聴いただいております皆様にとって有意義なものとなりますよう申し上げますとともに、本日の御意見等を今後のさつま町の町政運営に反映させていただければと思うところでございます。

本日、一日緊張感はあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。挨拶といたします。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

これから、本日の会議を開きます。

11番、永森智美さんから、本日の会議に欠席する旨、届出がありましたのでお知らせいたします。12人の予定でしたが、11人で進めてまいりたいと思います。

本日の日程は、お手元に配布してある議事日程のとおりであります。

それでは、日程第1 一般質問に入ります。

質問通告書に従い、発言を許可します。子ども達は、学校名、名前を言ってから発言をしてください。まず、一番、新留蒼大さん、お願いします。

【 1番 新留 蒼大 登壇 】

○新留蒼大議員

柏原小学校、6年生の新留蒼大です。

今日は、一日議員ということで、質問できることを大変嬉しく思います。どうぞよろしくお願いします。

僕は、柏原小学校が大好きです。学級では、みんなが笑顔でいたり、面白いことを言ったりする人がたくさんいて、毎日楽しく過ごしています。

また、僕は自然も大好きです。木や草を見たり、きれいなところで呼吸したりするととても心が落ち着きます。だから、このさつま町も大好きです。

これから、さつま町が自然豊かでどのような町になるのか、大変興味があります。そこで今回、環境への取組とさつま町の未来について、質問したいと思います。

よろしくお願いします。

1番目は、環境への取組についてです。

新聞やニュースを見ると二酸化炭素が増えていることが気になりました。僕が住んでいるさつま町でも二酸化炭素が増え、環境が悪くなっているのではないかと心配です。

そこで質問です。最近、発電するときに二酸化炭素が発生しない発電方法が注目されていますが、そういう発電方法に何か進捗があるか伺いたと思います。

2番目は、さつま町の未来のことについてです。

今、さつま町はとても住みやすい町だと思っています。この住みやすいさつま町が、将来どのようなになっているのか、とても関心があります。

そこで質問です。これからのさつま町は、どんなさつま町になっていきますか。何か計画があるのか伺いたと思います。

以上、二酸化炭素が発生しない発電方法の進捗状況、さつま町の未来について回答をよろしくお願いします。

【 1番 新留 蒼大 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

トップバッターでだいぶ緊張されたのではないかと思いますけれども、すごく立派です。

それでは、新留蒼大さんからの「環境への取組について」の質問に、お答えさせていただきます。

私たちが住んでいる、この地球では、二酸化炭素などの温室効果ガス、わかりますかね、気温上昇させる原因となる物質ですけれども、これが多くなりますと夏の暑さが40度を超えたり、今年も日本各地で観測されたようでございますけれども、集中豪雨やこの前の台風14号のように、大型で強い勢力のまま接近し、上陸するというようなことがありまして、隣の宮崎県では大きな被害も発生したことは知っていますよね。そのようなことも含め、また昨年の7月には、さつま町におきましても線状降水帯、大雨を降らす雨雲が次から次へと発生して、帯のようにつながって大雨を降らせるというような線状降水帯が発生しまして、さつま町にも初めて大雨特別警報が発令されまして、多くの災害が発生いたしました。このようなことが毎年、全国各地、全世界のどこかで発生しているというような状況下にあります。このような原因となります二酸化炭素による地球温暖化を防ぐためには、温室効果ガスの排出をいかにして減らしていくか、これが大事なことであります。

日本の電力の割合は、二酸化炭素を発生させる石炭、天然ガスを利用する火力発電が現在80パーセントとなっています。さつま町には、ソーラーパネルによる太陽光発電や川内川の水を利用した鶴田ダムなどの水力発電、また、小さな電力ではありますが川内川の支流にあります泊野川に小水力発電所が設置され、二酸化炭素が発生しない、自然エネルギーを利用した発電が行われています。このほかにも、全国各地で風力発電、地熱発電というようなのが行われているところであります。さつま町にある太陽光発電では、1年間で計算すると1,230万キロワットアワーと言ってもわからないですよ。一般家庭が年間に消費する電力量が約3,600キロワットアワーと言われておりますので、さつま町の世帯数が約8,900世帯ですから、約40パーセントの3,400世帯分の電気を発電しているということでもあります。

また、佐志地区に大きなソーラーパネルを使った発電所が出来ています。御存知ですかね。メガソーラーと言われる大規模な太陽光発電でございますけれども、これが、年内に発電が開始されるというようなことであります。その発電量につきましては6,180万キロワットアワー。約1万7,000世帯分。先ほど申し上げたのは、さつま町で3,400世帯分がありますけれども、これとは別に1万7,000世帯分の発電が可能となる施設ができるということでもあります。佐志の発電所だけでこれだけになります。そうしますと、さつま町の全世帯分が太陽光の発電で賄える状況にはなっているということでもあります。

今後、町では、自然エネルギー、再生可能エネルギーと言われるこの割合をいかに高めていくかというのが重要であると考えているところであります。

また、ここにつきましては様々な関係機関と連携を取りながら進めていきたいと思っております。

また、電機などのエネルギーを使う皆さん方にありましても、家庭や学校において、使わない電気をこまめに消す節電。それから、消費電力の少ないLED電球への交換、トイレの水を

流しすぎない、歯磨きのときは水を出しっぱなしにせずコップを使うなど、節水に努めていただく。このことが、省エネルギーに（つながる。）いかにしてエネルギーを少なく使っていくか。これがまた大事な部分でありますので、こういう取り組みもしていかななくてはならないということで、皆様方にも御協力をお願いしたい部分だと思っておりますので、よろしくお願いします。

次に、「未来のさつま町はどうなっているか。」というような御質問でございます。

まず、さつま町の将来の人口がどのようになっていくかということでございます。さつま町の人口は、9月1日時点で19,255人であります。残念ながらこの一年間で513名の人口が減少しております。このことは毎年、そのような状況下にあるところであります。これから18年後、新留さんが30歳ぐらいになられるころには、人口が1万5,000人を切っているだろうという予想が出ているところであります。今よりも5,000人近くが減るというような、今の統計上はそうなっているところであります。

遠い将来まで町がいつまで元気であるかということにつきましては、多くの方がさつま町に残って生活をしていただいて、また働いてもらう。このことがとても大切であり、特に若い人の活躍はなくてはならないものと考えています。

そのため今、さつま町では、人口がなるべく減らないように、町の外に住んでいる人をさつま町に住んでもらえるように、「さつま町に住んでみたい、住んでみよう」と思える取組を進めているところであります。さつま町で働ける場所を多く作るための取組にも力を入れているところであります。

新留さんも将来大学などに進学する場合は、一旦、さつま町を離れることになるかと思えますけれども、未来のさつま町が、子どもからお年寄りまで、全ての町民がこの町に住んでよかったと思ってもらうためにも、若い人の協力が必要であります。

是非、新留さんにも将来さつま町に残っていただいて、町のために頑張ってもらえると有難いと思っております。

以上で、新留さんの質問に対する1回目の回答を終わりますが、新留さんが考える未来のさつま町がどうなってほしいか、あるいは、自分の将来の夢がありましたらお聞かせいただければと思います。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

今、上野町長に答えていただきました。新留さん、理解できましたか。町長からの質問がございました。新留蒼大さん、答えていただけますか。

○新留議員

僕は、大きな工場がたくさんできたり、人混みが増えたりしていないので、今のまま自然豊かなさつま町でいてほしいです。しかし、生活用品を買ったり、雨の日に室内でも遊べるショ

ッピングモールやみんなが楽しむことができる施設がたくさんあってほしい気持ちもあります。ですので、自然は豊かなまま発展していったほしいと思います。

○上野町長

自然豊かなこの町が大好きということでございます。私も町長としまして、先ほど申し上げましたとおり、「この町に住んで良かった、この町に住んで楽しい」と思えるようなまちづくりのために一生懸命、頑張らせていただくことをお約束させていただきます。

○上別府議長

以上で、新留蒼大さんの質問を終わります。

次は、2番、川寄優真さん、お願いします。

【 2番 川寄 優真 登壇 】

○川寄議員

求名小学校、6年、川寄優真です。

今、僕は少人数の学校に通っていて、保育園時代の友達も他の小学校にはいますが、中学校は学級も多いので、入学したときに話ができる人がいるかどうか不安です。各学校同士の交流はあっても町内全体でというものがなかなかありません。陸上記録会のようなものでは、他校の人と交流するところまでにはならないので、英語の授業のようなコミュニケーションをとる場が欲しいです。小さい学校の児童がスムーズに中学校生活を始められるように、来年の中学1年生のための交流の場を作ってほしいです。

【 2番 川寄 優真 降壇 】

【 原園 修二 教育長 登壇 】

○原園教育長

川寄優真さんから「児童間の交流」、「学校間の交流」について質問がありましたのでお答えいたします。

川寄さんは、現在、求名小学校6年生で来年から中学校へ進学することになります。宮之城中学校は、生徒数が500名を超える大規模校ですから、クラスの人数も増えますし、また、バス通学になるなど環境が大きく変わりますので、中学校生活に不安を覚えるのは良くわかります。

宮之城中学校は4年前に、それぞれ町内に4校あった中学校が1校に再編され、そのときの新一年生は9つの小学校から入学してきました。中学校になるとそれまでの小学校とは環境が大きく違ってきますので、なかなか馴染めないで、中学校生活が楽しくないと感じる場合がよ

くあります。そうしたことから、最初の1年目は特に、小学校の先生方も私たち教育委員会も、川寄さんと同じような不安を抱いていました。

また、中学校の先生方も同じような不安を抱かれたようです。「馴れてくれるだろうか」と。ただ、不安を感じるのは小規模の小学校から入学してくる生徒だけではなく、大人数の小学校から入学してくる生徒も同じだったようです。そこで、宮之城中学校の先生方が特に入学してから1か月ほどは、皆が仲良く生活ができるように大変気を配ったということでもあります。

そうしたこともあって、最初心配したほどのことはなく、新入生はすぐに打ち解けて仲良くなり、部活動では先輩も出来て、楽しい中学校生活を送ることが出来たようです。川寄さんも中学生になったら、きっとすぐに慣れてくれるものと期待しています。

ただ、中学校生活に馴染めない生徒が出ることもあって想定して、小学校のときから、各小学校の児童同士が交流を図るのはとても大切なことだと思います。

こうしたことから、教育委員会では、交流の場としてこれまで、音楽発表会や陸上記録会をはじめ、夏休みですが「さつまっ子チャレンジ教室」、「イングリッシュ・デイ・キャンプ」、12月には「英語スキットコンテスト」を開催してきました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、この一、二年実施できなかった行事もあるのですが、昨年度の「英語スキットコンテスト」では、中学生を含めた町内の学校の児童生徒が一緒のグループになって、英語に慣れ親しむ活動も実施しました。今年度も12月に「英語スキットコンテスト」を開催する予定です。他校の児童と交流を図るためにも、多くの児童が積極的に参加してもらえるよう計画を進めているところです。川寄さんも是非、チャレンジしてほしいなと思います。

また、学校でも様々な取組がなされており、川寄さんの通う求名小学校では、修学旅行を永野小学校と合同で行う予定であると聞いています。また、来年度の宿泊学習も合同で実施できるように準備を進められているということです。少しずつ学校間の交流というものが図られていると思います。

陸上記録会については、今週の木曜日の6日なので、既に計画が出来ていますので、急に変更するというのはちょっと難しいかもしれませんが、川寄さんの提案にもありますので、来年度以降は、陸上記録会でも児童同士の交流が出来るような協議を考えたり、音楽発表会でもより多くの交流が図られるように、プログラムを工夫していきたいと思います。よろしくお願いします。

私も最後に質問させていただきたいのですが、川寄さんは中学校に入学したらどんなことを頑張りたいと思っていますか。

【 原園 修二 教育長 降壇 】

○上別府議長

川寄さん、理解できましたか。

それでは、ただいま教育長から質問がありましたが、答えていただけるでしょうか。

○川寄議員

将来の夢はまだはっきり決めてはいないので、どう進んでもいいように勉強を頑張りたいと思っています。現在、ソフトボールもしているので、野球もしたいですが、まずは勉強だと考えています。みんなで考えたり、相談したり、発表し合ったりしてこそ学習は深まります。そのようにみんなで協力して学習できるように、友達をたくさん作りたいのです。だから入学するまでにたくさんの交流の場があってほしいと考えています。

○原園教育長

ありがとうございました。勉強を頑張りたいという今のお気持ちをお聞きました。大変、心強く思います。求名小学校出身の宮之城中学校の生徒で、部活動でも勉強でも頑張ってリーダーになっている生徒はたくさんいます。先輩に続けというような意気込みで是非頑張してほしいと思います。

今、学校ではタブレットを使った授業を行っていると思います。タブレットを使って、学校間で交流をする、授業を交流するということもできますし、実際されているところもあるようです。そういった学校間の交流授業が今後、積極的に行われるように小学校の先生方にもお願いしていきたいと思っています。勉強の面でも交流を図り、友達を増やして、児童の皆さんが中学校生活を待ち遠しく感じられるように様々な機会を捉えて、積極的に他校の児童と交流ができるように、教育委員会からも校長先生へお願いしていきたいと思っています。

○上別府議長

よろしいですか。これからも頑張ってください。

以上で、川寄優真さんの質問を終わります。

次は、3番、新田健琉さん、お願いします。

【 3番 新田 健琉 登壇 】

○新田議員

求名小学校、6年、新田健琉です。

学校給食における地産地消について、社会の授業で日本は全体的に食糧自給率が低いと習いました。そこで、自分の住んでいるさつま町はどうなのか気になりました。さつま町の小中学校の給食において、地産地消は何パーセントですか。もし高い数値なら、それを維持するためにどのような工夫をしているのか、まだ低いようなら高くするためにどのような取組を考えているのかも教えてください。

【 3番 新田 健琉 降壇 】

【 原園 修二 教育長 登壇 】

○原園教育長

新田健琉さんから、学校給食における地産地消についての御質問をいただきましたので、お答えします。

地産地消は簡単に言うと、地元でできた農産物を地元で消費する、地元で食べるという意味ですが、新田さんも良く知っているとおり、さつま町を支えている産業、基幹産業と言いますが、これは農業です。そして、地産地消は農業と密接に関連している言葉でありまして、地産地消を考えるということは、さつま町の農業の発展、町の発展を考えることでもあります。昔から、その地域ではぐくまれてきた農産物は栄養価が高く、また、おいしいと言われてきました。地産地消は私たちの豊かな食生活、安心な暮らし、健康を守ることにもつながってくるものであり、とても大切だと思っています。

さて、学校給食における地産地消ですが、現在、さつま町では、宮之城学校給食センターと鶴田学校給食センターの2つの給食センターで調理を行い、それぞれのセンターから各小中学校に給食を提供しております。それぞれの給食センターにおいて、野菜等の仕入れ先は異なりますが、宮之城学校給食センターでは、町内にある宮之城青果市場から直接仕入れており、令和3年度の野菜における地産地消の率は、町内産で28.6パーセント、県内産で34.7パーセント、国内産36.7パーセントとして仕入れているところであります。果物では、町内産を42.2パーセント、県内産8.6パーセント、国内産40.7パーセント、外国産8.5パーセントとなっているようです。

また、米飯給食については、県内のほとんどの学校が週3回米飯給食を実施しているのに対して、さつま町は週4回の米飯給食を実施しており、使用するお米はすべてさつま町で採れるお米、町内産100パーセントであります。地産地消の取組についてですが、町では毎年8月に農協の方、青果市場の方、役場の方、それぞれの関係者が集まって地産地消推進会議という会議を開いています。この会議は、さつま町として地産地消をどのように進めていくかという問題について、話し合っています。その中で、宮之城青果市場では、いつ頃どんな野菜が出荷されるかということがわかりますので、給食センターではそれらを参考にしながら、今、どの食材を使えばいいかということを考えて、地産地消の献立を作っているということです。別の角度から、鹿児島県で、鹿児島県産の食材がどれぐらい使われているか、その割合を調べていますと地元産食材の使用率が全国の平均が56.0パーセント。全国（平均）56.0パーセントに対して、鹿児島県では地元産の食材を利用する割合は65.8パーセントとなって、全国で14位となっています。さつま町では、鹿児島県産まで含めた割合は66.5.7パーセントとなって、全国平均を10パーセント近く上回る結果となっています。こうしたことから、さつま町では学校給食の食材は出来る限り地元の食材を利用しており、全国と比較してもよい状態であるのではないかと考えています。これからも地産地消が益々進んでいけばいいなと思っています。

以上が質問に対しての回答になりますが、最後に新田さん、さつま町の農産物について、どのような食材を多くの人に知ってもらいたいと思っていますか。

【 原園 修二 教育長 降壇 】

○上別府議長

教育長から答えていただきました。新田さん、御理解できましたか。

それでは、教育長からの質問がございましたが、御解答いただけますか。

○新田議員

僕は、さつま町の牛を知ってもらいたいです。鹿児島県は、黒毛和牛が有名ですが、さつま町にも牛がいます。僕の家でも牛を育てています。地元にも全国的に有名な鹿児島の牛がいるというのは、誇りでもあります。だから食材としてどんどん使ってほしいです。自分たちも知ることが周りの人たちに知ってもらう第一歩になっていくと思います。

○原園教育長

ありがとうございます。牛肉を食材に使ってほしいと、そういう話も出ましたが、学校給食にもさらに牛肉を使った献立ができるように、給食センター所長も来ておりますので、お願いしておきたいと思います。

日本の食料自給率は令和3年度で38パーセントなのです。世界の先進国の中では、最下位となっています。多くの食料を外国から輸入しているということになります。食糧問題、日本全体から考えても非常に大きな問題であります。先ほども少し触れましたが、さつま町の地産地消を考えるとすることは、さつま町の未来の農業を考えることにもつながり、ひいては、日本の食料自給率、日本の食糧問題という非常に大きなテーマにつながっていくと思います。学校で勉強したことをさらに広げて、日本の食料自給率、日本の食料問題へとさらにテーマ広げていって勉強してほしいと思います。

○満園学校給食センター長

給食センターの満園です。よろしくお願いいたします。牛肉につきましてですが、今度9月補正をもらいまして、2学期、3学期に牛肉を提供するように計画しておりますので、楽しみにしておいてください。

○上別府議長

新田さん、ただいま2名の方から御解答いただきましたが、御理解できましたか。

以上で、新田健琉さんの質問を終わります。

次は、4番、満園美咲さん、お願いします。

【 4番 満園 美咲 登壇 】

○満園議員

求名小学校、6年、満園美咲です。

私の1つ目の質問は、さつま町のSDGsの取組についてです。学校で習った時にテレビ等で話題になっているごみ拾いやエコバックなどの活動を見ました。自分たちの住むさつま町ではどのような取組があるのか、自分たちにどのようなことができるか知りたくなりました。さつま町はSDGsで何か取組をしていますか。取組をしているのであれば、取り組みについて教えてください。

2つ目の質問は、公園の整備についてです。今、私は小規模校に通っていますが、校区も広く、放課後や休みの日に一緒に遊ぶことがなかなかできません。どこかにみんなで集まって遊べるような場所があれば、もっとみんなと仲良くできると思います。もしかすると他の小学校の子とも交流ができるかもしれません。校区内か校区のすぐ近くに子どもが遊べる公園を作ってほしいです。

【 4番 満園 美咲 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

満園美咲さんからの「さつま町のSDGsの取組について」の御質問について、先にお答えさせていただきます。

SDGsの関係につきましては、満園さんが学校で学習されているように、さまざまな問題について人々が「誰一人取り残さない」社会をつくるための17の目標に向かって、世界のすべての国が行動するということを定めているところであります。

さつま町におきましても色々な町民の方にまちづくりに参加してもらいながら、町民の方々が快適で安心した生活を続けられるよう、今年の9月22日「希望輝く さつま町SDGs推進宣言」を行ったところであります。その取り組みのスタートとしまして、町民の皆様にSDGsを知ってもらうために、標語コンテストを行い、町内から450名を超える応募をいただいたところでございます。コンテストの大賞作品をさつま町のSDGsを進めるキャッチフレーズとしまして、広報活動などに広くPRしていきたい、ここに活用していきたいと考えているところであります。10月になりましたので、今月中に宣言のお披露目といたしますか、コンテストのキャッチフレーズ等も広くお披露目していきたいと思っております。これらを活用して、広く町民の方々に知っていただく、実際に行動に移していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

また、プラスチックや空き缶、ペットボトルなどの資源ごみのリサイクルや、電気自動車などの二酸化炭素を出さない車への乗り換え、太陽光発電や水力発電など地球環境にやさしい自然エネルギーの活用、すべての人が性別に関係なく平等に暮せるまちづくりなど、町民の方々と地域、学校、事業所が一緒になって取り組むことを目指しているところであります。こ

れは、1人だけ頑張っても難しい部分があります。

1人から2人、2人から4人とどんどん広げていって、全体で取り組んでいく取組が必要かと思っております。学校や家庭でもいじめや差別をしない、食べ残しをしない、電気や水のムダづかいをしない、使えるものは最後まで使うなど、身近にできることがたくさんあると思っています。満園さんも17の目標のどれか1つでもいいですので、これからのさつま町や世界がよりよい社会となるよう、友達や家族の方などと一緒に考えて行動に移してほしいと思います。そうしていただくことで、変わっていくと思います。

次に、校区内か校区のすぐ近くに子どもが遊べる公園を作ってほしいとのことでございます。先ほど話をされたように、みんなで集まって遊ぶことは非常に楽しいことであります。私も小さい頃友達や近所のお兄さん、お姉さんたちと日が暮れるのを忘れて遊んだものです。今でも楽しい思い出となっています。公園のことですが、町内には児童遊園地が15カ所あります。しかし近頃では、子どもの数も減り、年々公園で遊ぶ子ども達も減りつつあります。平日の放課後もいろいろな活動があるようで、なかなか公園で遊ぶ時間がないとも聞いています。満園さんのいうように、近くに子ども達が遊べる公園があればいいのですが、なかなかこういう状況の中で新たに公園を作るというのは難しいところであります。近くでは、小学校の校庭がありますね。校庭は各学校で一定のルールがあるようです。そのルールを先生に聞いていただいて、休みの日に利用したり、求名でしたら近くに子ども図書館もございます。このような図書館も利用していただければと思うところでもあります。こども図書館は、家族で利用できる「屋根のある公園としての図書館」という考えで作られたものでもあります。外の公園のように、走ったり、大きな声で話したりはできませんが、小中学生に読んでほしい本もたくさんあります。図書館に読みたい本がない場合は、遠慮なくこういう本が読みたいとリクエストしていただいて構いません。

秋は読書の秋とも言います。お友達同士で、好きな本を紹介しあったり、今まで読んだことのない種類の本を読んだり、いろいろな発見をしていただけたらと思います。休みの日には、町内の他の学校の子ども達も利用されているようですので、また是非、足を運んでいただければと思います。

他の小学校の子どもとの交流ですが、町内の小学4年生から中学校2年生までのみなさんが、年間を通して一緒にさつま町の自然や文化に触れ、体験活動をしながら交流を深める「さつまふるさと体験塾」もありますので、この体験塾等にも積極的に参加していただければと思います。また、満園さんの希望される「近くで遊べる場所」とは違いますが、日中も過ごしやすくなりましたので、北薩広域公園ののびのびゾーンなども御家族で利用されるのはどうでしょうか。お友達、御家族と一緒に利用されるのもいいのかなと思っています。

今、回答させていただきましても最初のSDGsの関係でございます。私から満園さんにお尋ねさせていただきますが、SDGsの取組は17の目標、取り組みがありますけれども、私だったら是非、この取組をしてみたいというものがあればお答えいただきたいと思います。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

満園さん、町長からのお答えがありましたか理解できましたか。

それでは、町長からのお尋ねがありましたか、満園さんから御解答願えますか。

○満園議員

私は14番の海の豊かさを守ろうが気になっています。ニュースでマイクロプラスチックが海を汚していて、魚やウミガメが死んでいるという話を知ったからです。日頃、エコバックを持ち歩いたり、水筒を使ったり、ごみの分別に気を付けたりはしています。それでも十分ではないと思うので、ほかにどんなことができるか知りたいと考えています。

○松山町民環境課長

今、満園さんからSDGsのなかでも海の豊かさを守るという取り組みに興味があるという回答がありました。さつま町には海はありませんけれども、マイクロプラスチックの原因となるようなごみの分別、これを出さない取組というのも一生懸命進めておりますので、また御理解いただき、満園さんもこの活動に御協力いただければと思います。

○上別府議長

以上で、満園美咲さんの質問を終わります。

ここでしばらく休憩をいたします。再開は概ね10時05分とします。

○上別府議長

休憩に引き続き会議を開きます。

次は、5番、中根あこさん、お願いします。

【 5番 中根 あこ 登壇 】

○中根議員

鶴田小学校、6年、中根あこです。

私の思うさつま町のいいところは、自然が豊かで、質のいい温泉があるところです。竹のまちなので、竹細工やタケノコも有名です。特産品などを調べてみたら、薩摩西郷梅、芋焼酎、お茶、黒牛、あおし柿、鶴田手漉和紙もありました。私はまず自分で工芸品などを見て、作ったりすることを体験してみようと思いました。そして、体験して感じた魅力をどのように伝えればいいのか知りたいです。

2つ目の質問は、私の通学路は山もあったり、下には田んぼもあったりして、両サイドに草がたくさん生えています。お父さんや集落の方々が草払いをしてくださいますが、いつもでき

るわけではありません。国道沿いの歩道にもたくさん草が生え、長く伸びているところもあります。歩きにくかったり、雨の日は草で濡れたりもします。暑い時は、虫やヘビなども出てきて怖いです。こういう時はどこに連絡をして対処してもらえばいいですか。

【 5番 中根 あこ 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇】

○上野町長

それでは、中根あこさんからの最初のさつま町の魅力をたくさんの人に知ってもらうためにどういう取り組みをしたらいいかという御質問に回答させていただきます。中根さんの質問にもありましたように、さつま町にはさまざまな資源がございます。ホテル舟、温泉、鶴田ダム、北薩広域公園などの観光施設、それから宗功寺のお墓、宗功寺については国の文化財ということで指定もされた素晴らしいものであります。それから永野金山、金吾様踊りなどの文化的なもの、マンゴーやきんかん、イチゴ、和牛、竹など食べ物や特産品の数々、さつま町の「人・もの・自然」の中にたくさん魅力があります。先ほど、中根さんからもありましたけれども、本当に気が付かないところにいろんな素晴らしいものがあるということでもあります。

町では、昨年農協さんや商工会さん、そして観光特産品協会さんと一緒になって「薩摩のさつま」漢字の薩摩に平仮名のさつまと書きますけれども、「薩摩のさつま」という地域のこのさつま町の特産品に対するブランドづくりに取り組んでいるところであります。まだまだ今始まったばかりですが、一生懸命町内の若い人たち含めて「薩摩のさつま」のブランドづくりに取り組んでいるところであります。これも一つのさつま町の大きな魅力の一つかなと私は思っています。

この「薩摩のさつま」では、お互いが褒め合い、支え合い、地域愛を合言葉に、町の中でできた自慢できる商品をみんなが紹介し、町内外に広めていこうとしています。みんながしっかりとタグを組んで、これを町内、町外、県外に広めていこうと頑張っています。これも情報発信というかたちを使いながら、いろんな取り組みを進めているところであります。紹介するために必要なことは、まず、その商品や品物がどういうものかまず自分が知ることです。一番いいのは、食べてみるのが一番いいのです。先ほど出ましたように、黒毛和牛、さつま町は黒牛の産地でもあります。まず実際に食べてみて、本当においしいのだと（感じて）「是非、皆さん食べてください。」友達にも「食べてみて」とこういうかたちで広げていく。このことが情報発信に繋がっていくものと思います。

それから先ほどもうしましたように、宗功寺、永野金山、金吾様踊りなど自分でしっかり見ていただく、そこに足を運んで実際に自分の目で見てどうなのか、本当に人に見てもらいたい、この踊りを見てもらいたい、むかしはここで金を掘っていたのだ、そこを見てもらいたい。そのことをしっかり伝えていく為にも、まず自分の目で耳で聞いてしっかりとこれを伝えていく。1人に伝えれば、2人広がります。また2人が4人に広がります。だからこれも情報発

信の一つです。今、スマホを使ったいろんな情報発信もあります。まだ、小学生なので使うには制限があるでしょうけれども、そのようなかたちで我々も情報発信をいたしているところがあります。それから、先ほど申しましたように、忘れてはいけないことはまずは自分が好きになることです。この町を好きになる。この地域を好きになる。そのことが一番大事ですので、しっかり自分が好きになること、愛すること、これかなと私は思います。必ず気持ちは伝わっていくものだと思います。例えば、ホテル舟の魅力についても、ただ、「川内川で美しいホテルの飛び交う姿がみることができます」と伝えるよりも、川沿いの家の人達が協力してホテルが見えるように電気を消したり、子ども達が合唱する中で、美しいホテルの飛び交う姿が見ることが出来るということ話した方が、しっかりと伝わっていく。こんなイメージ、そこで見られない人にはそういうかたちで伝えていく。我々町としての責任もありますけれども、やはり皆さん方が1人1人、しっかりと人につないでいく。このことで、どんどんその輪は広がっていくのかなと思っています。今のホテル舟があるのも、やはりそういう取り組みのお陰かなと思っています。ですので、中根さんがさつま町の魅力と思うものをできるだけ詳しく、学校でも「さつま学」がありますよね。さつまのことを学ぶ機会がありますけれども、そういうところでも勉強していると思いますので、いろんな方面から学習しながらひと言添えて話すようにしていけばいいのかなと思っています。町内の方の中でも、ホテル舟をまだ見たこともない、行ったこともないという方もいらっしゃるし、宗功寺を見たことがないという方もいらっしゃいます。ですから、そういう時には、友達に「あそこにはああいうのがあるよ」というのを伝えていくことが必ず、多くの人に魅力が広がっていくものと私は思っているところであります。先ほど言ったように、町として情報発信をしていくことは当然のことながら、いろんな方法で広げて情報発信をしていきますけれども、やはり一人一人が自分の町の良いところを好きになって、これに是非、取り組んでいただきたいと思います。あと一点については教育長のほうからお答えがありますけれども、私からは以上になりますが、中根さんにとって、さつま町の魅力、中根さんが好きなものがあればまたあとでお聞かせください。終わります。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

【 原園 修二 教育長 登壇 】

○原園教育長

続きまして、草が伸びて歩きにくい通学路について、御質問いただきましたので、お答えします。

はじめに歩道というものについて、簡単に説明しますが、児童生徒の皆さんが登下校をはじめ、多くの方が利用される歩道ですが、歩道は道路の一部となっているようです。その道路は、道路に架かる橋やトンネル、道路に設置してあるガードレールやロードミラー、案内板など、含めて管理しているところは、道路の種類によって違っています。道路の種類と言いましたが、例えば、鶴田小学校前の大きな道路は、国道267号線といい、国が管理をしていま

す。その国道から鶴田小学校の新しい正門や鶴田体育館に向かう道路は、町道になります。町の道路、さつま町が管理をしています。また、県道、県が管理をしている道路もあります。県道は、その名前のとおり鹿児島県が管理をすることになっています。このように、皆さんが自宅から学校まで登下校している通学路は、一つに続いている道路ですが、国道の部分があったり、町道の部分があったり、県道の部分があったり、それぞれ分担して管理しています。さつま町の町道の管理についてですが、草刈などは当然さつま町が行うことになりますが、町内には町道何何線というように、町道と呼ばれるものは約1,200路線があり、町道の長さをずっと繋げていくと約800キロになると言われています。これは、鹿児島県から兵庫県ぐらいまでの距離になります。大変長いですね。このようにさつま町の町道は大変に長いので、お父さんやお母さんや公民会の皆さんに協力をお願いして、自宅周辺の道路、公園などの草取りや清掃活動などに取り組んでいただいているところです。また、草刈の範囲が広く、草刈り機などの機械が必要な場所については、町内の建設業者あるいはシルバー人材センターの方々をお願いをして、やっていただいているところです。この町道の道路につきましては、教育委員会では毎年10月にさつま警察署や学校の校長先生、町の道路管理者、県の道路管理者など各関係機関合同による推進会議というものを開催して、町内全学校の通学路について実際に目を見て、危険な箇所を確認して改善に向けた取組を行っているところです。それでも、中根さんに指摘していただいたように、草が伸び歩きにくいというところがありますよね。そういった場合は、通学路でそのような場所があったらまずは、おうちの方に、あるいは学校の先生方に相談をしてみてください。おうちの方や先生方は、皆さんからの相談があれば、学校や町の関係するところ、建設課といいますが、そういったところや教育委員会へ連絡していただけたと思います。町や教育委員会では、場所や現状を確認した上で対応しています。道路の管理者が町でない場合でも、県や関係機関へ連絡し、草刈などの対応をしていただくようこちらからお願いしております。また、今回の御質問の件も含めて、通学の支障になる雑草や道路が陥没している危険な場所を発見した場合は、遠慮なく先ほどと同じように連絡していただければ、対応したいと思います。以上が、通学路に関する回答になります。先ほど町長からも答えていただきたいという質問がありましたけれども、私からも1つ通学路について質問をさせていただきます。中根さんは、新しい鶴田小学校になり、通学路が変り半年が経ちましたが、前の通学路と今の通学路を比べてどのような印象をお持ちですか。感想があれば教えてください。

【 原園 修二 教育長 降壇 】

○上別府議長

ただいま町長と教育長からお答えいただきましたが、中根さん、御理解いただけましたか。町長と教育長からお尋ねが2点ありましたが、中根さんからお答えしていただけますか。

○中根議員

私にとってさつま町の魅力は、自然が豊かでたくさんの特産物があり、温泉も有名なところ

です。特産物には、梅やタケノコがあります。梅は西郷梅がすごく有名です。湯田にはたくさんの温泉旅館があります。私も湯田の温泉に入ったことがあります、とても気持ち良かったです。ほかにも私の住む鶴田にも、鶴田ダムやホテル舟などがあり、さつま町は本当に魅力いっぱいの町だと思います。

次に、通学にかかる時間は倍の20分から25分になりました。私の通学路は怖いです。草や木が生い茂ってとても暗いし、いつ車が通るか分からないので、伸びた草を避けながら歩くと車にぶつかりそうで、とても危険な通学路です。通学路が変わって注意するようになったことは、横断歩道で車が来ないか確認することが多くなったことです。通学路が変わって新しく楽しみのようになったことは、今まで一緒に登校できなかった友達と時間が合うようになり、一緒に登校できるようになったことです。

○上別府議長

ありがとうございました。

○中村商工観光PR課長

中根さん、たくさんの魅力を教えていただきまして、ありがとうございます。今年、町では観光で一番大事な「観光振興基本計画」という計画づくりを進めております。そういった中でも、中根さんの御意見を参考にしながら検討していきたいと思いますので、計画ができましたらこちらからも紹介したいと思います。終わります。

○原園教育長

通学路のことにに関して現状を教えてくださいましたが、非常に注意して通らないといけないということがあり、安全には充分注意しながら登下校していただきたいと思います。新しい鶴田小学校が開校する前、町の教育委員会それから流水小学校、それから鶴田小学校の先生方、PTAの関係の方、地域の方々と新しく通学路になるところを何度も通って、確認をしました。現地を歩いて、「ここは危ないな」ということを共有しながら対応しているところですが、まだまだ指摘があったようにそのようなところがあると思います。また教えていただきたいです。現在の鶴田小学校は111名になりました。私たちが当初心配していたよりも、ずっと早く新しい鶴田小学校に慣れて、楽しく学校生活を過ごしているとこちらからは見ております。小学校生活は6年間ですので、あと半年になります。中根さんは新しい鶴田小学校で最初の卒業生ということになります。しっかり勉強をして中学生になる準備をしてほしいと思います。教育委員会も皆さんの通学路の安全確保の徹底と事故防止に関しては一生懸命、努力をしてまいりたいと思います。

○上別府議長

以上で、中根あこさんの質問を終わります。

次は、6番、堀之内楽さん、お願いします。

【 6番 堀之内 楽 登壇 】

○堀之内楽議員

盈進小学校，6年，堀之内楽です。今日はよろしくお願いします。

年々夏の暑さが増してきています。運動会での熱中症のリスクも高まっています。そこで校庭のフィールドを芝生にすることはできませんか。

【 6番 堀之内 楽 降壇 】

【 原園 修二 教育長 登壇 】

○原園教育長

堀之内楽さんから，学校の環境整備，校庭を芝生にすることについての御質問がありましたので，お答えいたします。

今年の夏も大変暑い日が続きました。盈進小学校の運動会も先日行われましたが，非常に晴天に恵まれ大変暑い中でしたね。盈進小学校の皆さんが一生懸命トラックを駆け回る姿や一生懸命応援している姿，そういったものを見ながら私たちも一緒に楽しんでいたところであります。

そんな暑さ対策，熱中症対策のために校庭を芝生化できないかとの御質問であります，確かに年々夏の暑さは毎年，毎年暑くなっているように感じられます。今年も「猛暑日」と言われる日が続いた時期もありました。学校の校庭に芝生を前面に敷くということは，地面の温度の上昇を和らげたり，ケガをしないよう，ケガのリスクを減らしたりと，子ども達の学校生活の大変良い影響を与えるものだと思います。さつま町の小学校においても，校庭の一部を芝生化している学校はありますが，過去に校庭の全面を芝生にできないかという議論，話し合いがなされたことがあります。そこで問題になったことの一つに，校庭の排水の問題があります。水はけの悪い環境では，芝生が根付かず生育できにくいと言われております。ゴルフ場などの芝生は，テレビなどで見ると大変きれいです。排水対策がしっかり取られている。そして芝生が生育できる環境が十分整っているということのようです。

盈進小学校はシンボルツリーであるクスノキとせんだんの2本の大きな木があります。2本の木の根がグラウンド中に張り巡らされるように伸びていて，決して排水が良いとは言えないと思います。芝生化を進めるには非常に大きな課題となってくると思います。

2つ目は，芝生の維持・管理の問題です。学校全体の植物や動物の管理に加えて，芝生の維持・管理をどういったかたちで進めていくかということでもあります。校庭は広いですので，定期的な芝刈りをしたり水やりなど，例えば学校の用務員さんや学校の先生方をお願いして行ったとしても，それでも手が回らない場合，そういった場合はどのように管理や様子をみたりしていくことができるかということが大きな課題となっています。鹿児島県内で，グラウンドを全面芝生にしている小学校もあります。その学校に，堀之内さんからの質問があったことをき

かけとして、電話をして聞いてみました。「どのように（管理）されていますか。」と様子を尋ねてみましたが、芝刈りや水やりのほかに、芝の中に多くの雑草が混じって出てくるようです。この学校ではトゲがある草が混じって出てきて、取るのが大変ということでありました。雑草対策として、薬剤を撒いているということ、それからトラックの部分は土になりますが、そこに芝生がはみ出してくる。そこには除草剤を撒いているということです。サッカーやソフトボールなどで激しい運動をするとその部分だけ、芝がすれて土が見えてくるので、そういった部分には新しい芝を植えて、それを育てていくということで管理が非常に大変だとお聞きしました。学校の校庭は、児童生徒だけではなくて、地域の皆さんやスポーツ少年団体にも利用していただいておりますので、もし、芝生化を進めることになると、多くの方に芝生の管理に関わっていただいて、学校と地域の利用者の皆さんが一緒になって大切にしていけることが大事になってきます。今すぐにはありませんが、将来的には校庭の芝生化ということも含めて、暑さ対策について今からもっと検討が進められると考えておりますが、排水対策や芝の維持・管理、整備や維持に関する経費の問題などもありますので、各学校の保護者や地域の皆様の御意見等もお聞きしながら実際の必要性や実施の方法について、研究や検討を進めてまいりたいと思っています。グラウンドの暑さ対策ということでしたが、学校では教室にエアコンが設置して暑さ対策としてやっておりますが、設置する前と比べて授業などはいかがでしょうか。感想を教えてください。

【 原園 修二 教育長 降壇 】

○上別府議長

ただいま教育長からお答えいただきましたが、御理解できましたか。

それでは、教育長からの質問がありましたが、お答えできますか。

○堀之内楽議員

エアコンのお陰で快適になり、授業を受けやすくなりました。ですが、理科室と音楽室には付いていないので、夏は少し集中できませんでした。夏でも冷感タオルなどの持込みができるようになれば、理科と音楽の授業に集中できそうです。今は、秋に近づいているので扇風機があれば大丈夫です。これからは寒くなるので、ひざ掛けにできるぐらいの小さめの毛布を持ってこられるようになればいいなと思うことがあります。

○原園教育長

教室のエアコンについて、非常に快適になったということで大変有難いのですが、理科室、音楽室はまだだということで、また要求をしてすぐ設置できるようにお願いをしていきたいと思えます。しばらく残暑も残るようです。登校の様子を見ていると皆さん水筒を持って行っていますね。暑さ対策をしっかりとられていると思えます。水分補給をしっかりとされていると思えます。今週は先ほども出ましたが、陸上記録会が6日、木曜日にあります。それに向けて

練習している児童も多いと思いますが、盈進小学校の場合はせんだんの木、クスノキ、藤棚、イチヨウの木など木陰、陰がありますので、そこを上手に使いながら熱中症対策をしてほしいと思います。冬の寒さ対策を考えていらっしゃるようですが、防寒着を持ってくるのも一つの方法ですね。意見があったことは学校にもお伝えしたいと思います。今後も児童生徒の皆さんが快適に学校生活を送ることができるように、環境づくりの観点からは注意を払いながら頑張っていきたいと思っています。

○上別府議長

以上で、堀之内楽さんの質問を終わります。

次は、7番、堀之内義人さん、お願いします。

【 7番 堀之内 義人 登壇 】

○堀之内義人議員

盈進小学校、6年、堀之内義人です。

僕は、2つ質問があります。1つ目は、人口減についてです。

さつま町の人口は、少しずつ減ってきていてこれからも減っていくと思います。人口が減っていくことで困ることは何ですか。また、減らないためにはどんな取り組みをしていますか。

2つ目は、コロナ対策についてです。

コロナに感染する人が増えていますが、さつま町は、コロナに感染しない、または感染した人にどのような対策をしていますか。

【 7番 堀之内 義人 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

堀之内義人さんから人口減とコロナ対策の2点についての御質問がありましたので、回答させていただきます。

まず、人口減の関係等については、堀之内さんが質問されたとおりに年々さつま町の人口は減ってきております。先ほどもお答えいたしましたけれども、今後も減り続ける予想が今（の段階）では、出されているところであります。先ほどの質問でもお答えいたしましたけれども、堀之内さんが30歳になる頃、2040年には今の予想では1万5,000人を切ってしまうという状況でございます。また、さらに2055年、ちょうど（堀之内さんが）45歳の頃になりますが、私はこの世にいるかどうかわかりませんけれども、もうこの頃は、このままいくと人口が1万人を切ってしまうのではなかろうかと思っています。これは日本全体が人口減少傾向に入っています。今1億人を超えている人口もこの40年後ぐらいには8,000万人というよ

うな数字になるのではなかろうかと、そのような予想も出ているところであります。人口が減ることによって困ることにつきましては、たくさんございます。例えば、お店のことを例にあげますと、人口が減るということは、買い物をする人も減ってくることにもつながりますし、そうなるとお店の売上げも減少して、商売が成り立たなくなってしまいます。結局、お店自体がなくなってしまった恐れがございます。お店がなくなれば、これまで近くで買い物ができていたのに、遠くまで行かないと買い物ができない。それから特に、お年寄りの方にとっては生活が大変しづらくなります。買い物のほかにも、会社や行員、食事をするお店なども減っていくことを心配しております。人口が減ることによって町にとって良いことは全くありません。そのようなことから人口が減らない取組につきましては、新しい働く会社、企業を外からさつま町に誘致する、それから今、さつま町にある企業をもう少し大きくしていただいて、働く人を増やしていく。そのほか、さつま町で生活してもらうために必要な家を建てるための土地の販売もしております。町内で住む人がいなくなった空き家も改修して、そこに住んでいただく、このような取組もしているところであります。住みたい人に紹介する取組なども様々な取組も進めているところであります。また、さつま町に近隣の鹿児島市とか近いところから早く来ていただけ、空港への道路、空港道路と申しておりますけれども、その整備も今進めております。このことにより人がさつま町に、短時間で来れる、いろんなところに（さつま町から）働きに行ける、というようなこと（効果）もありますので、大きな道路の整備も進めているところであります。いろいろお話ししましたが、人口が減っていくことが町にとって一番の問題と考えているところであります。なるべく人口が急激に減らないように、日本全体が減っていく状況の中にありますので、これをなかなか増やすのは非常に難しい部分もありますけれども、少しでも一人でも、二人でも、この町に来ていただいて住んでいただく、このような取組もまた堀之内さんが考えるような取り組みがあれば、そういうのもまた教えていただければと思うところであります。

次に、コロナの対策の関係等であります。新型コロナウイルスの感染がはじまってからもう3年近くが経とうとしております。これまで第7波と言われるようなことも経験しながら（現在に至って）きておりますけれども、特に7月後半から感染する人が急激に増え始めましたね。学校でも多くの友達が休んだりと思ったと思います。感染が広がってから、ワクチンも接種も進めてきております。ワクチン接種を3回接種してから期間が長くなりまして、ワクチンで予防できる効果が下がってきたことから、7月の感染の急拡大というのはあったのではないかと考えております。また8月のお盆の期間には、県内や県外から故郷に、堀之内さんちにもお帰りになったかもしれませんが、家族や友人と会うこと、それから旅行などで人の行き来が活発になって、人との接触が増えたため、感染者が増えたのではないかと考えております。さつま町でも、町民の皆さん方に私も何回か放送をしました。聞いたことがありますか。その中でも「密閉・密集・密接」よく聞く言葉だと思います。この3密を避けて、マスクの着用、手や指の消毒などをしてもらうように広報紙やホームページ、LINE等でもお願いをしてきたところであります。また、感染の予防や感染しても症状が重くならないようにワクチン（接種）をすすめており、今は5歳以上の子どもや大人を対象としておりますが、今後は6か月の

赤ちゃんから4歳までの子どもも受けることができる予定であります。なお、12歳以上で2回目のワクチンを接種した人につきましては、10月3日、明日から町内の医療機関で「オミクロン株」に対応したワクチンが接種できるように段階的に進めていく予定であります。

それから、次に「感染した人にはどのような対策をしていますか」ということでありますけれども、コロナに感染した人の名前や住所などの情報は、保健所と言われる県の機関がありますけれども、そこが管理しております。町で直接対応することはできません。家族全員が感染して、知り合いなどの手助けなどをもらえない場合につきましては、保健所から役場に連絡があり、食糧品等の買い物に行けない方々については、支援を行ってきたところであります。これについては、町内で8世帯、21人の方が支援を受けられているようであります。今後、コロナの関係等についてもいろんな制限が緩和されていくと思います。しかしながら、これから寒い時期に入ります。これまで去年、その前（の年と）、インフルエンザが流行しませんでした。これはマスクの着用、手指の消毒、うがいなどの励行でインフルエンザが流行しませんでしたけれども、今年は新型コロナウイルスと同時にインフルエンザも流行するのではなかろうかと言われております。引き続き感染対策の予防を呼びかけながらワクチン接種をする大切さもお知らせしていきたいと考えているところであります。

以上で、堀之内義人さんの1回目の質問の回答は終わりますけれども、堀之内さんが考える町の人口が減らないため必要なことがあれば、教えていただければ有難いです。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただいま町長にお答えいただきました。堀之内さん、御理解できましたか。町長からあった質問にお答えいただけますか。

○堀之内義人議員

若い人が都会に行かないように、さつま町が日本一になるような仕事を作ったらいと思います。あと、「日本一、子どもを育てやすい町」にしたらいと思います。

○上野町長

有難い御助言をいただきました。日本一の仕事というのは、やはり町内の企業さんも含めて、本当に日本はものづくりという文化をもった国であり、そこから日本は今こんな国になったところでありますので、日本一の技術を持ったようなそういう企業もできればこの町に誘致できるように、頑張っていきたいと思っております。それから、この町に住みたい、住んでみたいと思うような取り組みも一生懸命頑張っていきたいと思っておりますので、またいろいろありましたら連絡ください。

○米丸ふるさと振興課長

ふるさと振興課長です。大学進学のために高校を卒業しますとさつま町を出て行かれる方が、たくさんいらっしゃいます。さつま町に働く場所が多くあれば、町内に就職できたり、出て行った方々もまた帰って来てくださるリターンというようなことがあると思っておりますので、工場の誘致につきましては一生懸命取り組んでいきたいと考えております。今、おっしゃいましたように世界一のものがくれば、なおさらたくさんの方々がこちらに就職していただけるのではないかと考えております。また、若い人たちが町を離れるということになりますと、益々人口が減っていきますので、若い世代の人達が減ることは、堀之内さんみたいな子どもさん達が減っていくということになりますので、さつま町に少しでも多くの方々が住んでいただくように、頑張っていきたいと思っております。以上です。

○上別府議長

以上で、堀之内義人さんの質問を終わります。

次は、8番、本田楓真さん、お願いいたします。

【 8番 本田 楓真 登壇 】

○本田議員

盈進小学校、6年、本田楓真です。

1つ目は、まちづくりについてです。

町長は、なぜ町長になろうと思ったのですか。また、町長はこれからどのような町にしたいのですか。

2つ目は、さつま町の高校についてです。

さつま町にはなぜ、高校が1つだけなのですか。

【 8番 本田 楓真 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

本田楓真さんからの質問のお答えさせていただきます。

まず一点目のなぜ町長になろうかと思ったかという質問であります。野球で例えると、ど真ん中のストレートできましたね。本当に有難いと思います。

ちょっと私が小さい頃からの話をさせていただきますけれども、私は中学校に入るまで人前に入るのはもちろんのこと、人前で話すことが大の苦手でありました。今では想像できないかもしれませんがけれども、本当に引っ込み思案で人の前で話すなんてことはとてもとても、できるような人間ではありませんでした。そういう自分が嫌で中学校に入ってから野球部に所属

し、途中で視力が急激に落ちた関係で野球部は辞めましたけれども、高校に入ってから空手部に入って自分を変えなければと思い、そういうところに入ったところであります。高校卒業後の進路を決める時には、地元に残りたい、それから人の役に立つ仕事をしたいという想いから、当時の宮之城町の役場の職員として入ったところであります。役場に入ってから40年間仕事をいたしました。その間に大きな災害もあり、地震、水害等もあり、町同士の合併も経験しました。そういう中にあっていろんな町民の方々から多くのお叱りも受け、また逆に本当に喜んでいただけたこともたくさんありました。本当にそのような経験からこの仕事についてよかったなと、今でも思っているところであります。その仕事をする中で、当時まだ20代後半だったのでしょうか、その時の町長が先頭に立ってこの町を引っ張っている姿を見て、またその町長が「あなたもせっかく役場に入ったのだから、将来は町長を目指さんね」というようなことを言われたこともありました。そのようなことから、町長という仕事はどんなものなのか、（自分に）できるのか。といろいろと考えたときもありました。町長という仕事は決して楽な仕事ではございません。大きな災害はもちろんのこと、様々なことの先頭に立って引っ張っていかねばならない、大きな責任もあります。「誰かがしないといけない、だったら自分がやってよろうじゃないか」ということで、決めたのが一昨年の時であります。ちょっとカッコよかったですかね。そういうことで町長として今何ができるか、ということを変えて自分に問いかけながら頑張っているところであります。是非、本田さんも将来この町に残って、町長になってこの町を引っ張っていくというぐらいの想いをもって、これから頑張ってもらいたいと思います。

次に、これからどのような町にしようかと考えているかということについてです。先ほども御質問がありましたけれども、人口が減っていくさつま町において、町内に住むお一人お一人が生き生きとして、幸せな暮らしができるように、またこの町に住んでみたい、住んで良かったと言われるようなまちづくりの取組を進めていきたいと思っております。先ほど質問でありましたけれども、いろんな取組を進めております。まだまだ足りない部分もあるかと思っておりますけれども、これらをどんどんしながら、町に人が来て笑顔で住めるところにしたいと思っているところであります。このようなまちづくりを進めるためにも、先ほどからありますようにさつま町で働いてもらうことが重要でありますので、企業誘致などそういうのを含めて、進めていきたいと思っているところであります。本田さんも、先ほど町長を目指して頑張ってくださいという話もしましたが、今日のこの「一日議員」を通じて、今後質問や意見等をどんどん出していただいて、まちづくりに自分も参加をしていただければと思います。

次に、高校の関係であります。なぜ一校なのかということでもあります。高校の歴史を話すと非常に長くなるわけですが、最初にできたのが今から約110年前であるようであります。その後、変遷がありまして、最初に（高校が）できたのが明治45年。その後、昭和23年には「鹿児島県立宮之城高等学校」に名前が変りまして、その頃「農業科」と「普通科」という科目が設置されたのが、今の前進であるようであります。当時は年々生徒が今と違い、どんどん増えていく時代でありました。昭和38年にはこの高校が2つに分かれました。「宮之城高校」と「宮之城農業高校」と2つの高校が新しくできたわけですが、この高校に

は、主にさつま町と薩摩川内市の生徒が通っていましたが、時代とともに生徒がどんどん減少してきたことから17年前の平成17年に2つの高校が合併しまして、新たに漢字の「薩摩中央高校」が誕生したところであります。ここから1校になったということですね。しかしこの薩摩中央高校も年々生徒が減ってきております。現在、少しでも生徒を増やそうと高校と町が協力して皆さんが行きたいと思えるような高校づくりを目指して取り組んでいるところであります。県外からの留学生も来年から受け入れできるように、今やっておりますけれども、そのようないろんな取り組みをしながら、できるだけ薩摩中央高校に来ていただいて、そこで学んでいただくように頑張っているところであります。学校はまだあと1校ぐらい増えれば一番いいのかもしれませんが、今そういう状況であります。先ほど、私になぜ町長になったのですかという質問がありましたので、本田さんの将来の夢をありましたらここでお披露目していただいて、その実現のためにどういう取り組みをしたいと思っていच्छるのか、お聞かせいただければ有難いです。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

○上別府議長

ただいま町長からお答えがありましたが、本田さん、御理解できましたか。あなたの直球の質問に町長が真摯に答えられておりました。そこで、町長からの質問もあったようですが、本田さん、お答えできますか。

○本田議員

将来の夢は、警察官です。なぜなら、まだ小さいのに殺されたなどのニュースをよく目にするので、人を助けたいという気持ちが強くなりました。まずそのためには、国の法律やどの事件が逮捕や罰金という基準を知るために勉強をしたいです。

○上野町長

その目標の実現のために頑張っていたきたいと思います。私は、役場職員もですが、そのほかには警察官にもなりたと思っていました。警察官になるためには、先ほどありましたように勉強もですがからだもしっかりと作らないといけないので、からだづくりも頑張っていて、是非、目標達成に向けて頑張っていたきたいと思います。

○上別府議長

以上で、本田楓真さんの質問を終わります。

ここでしばらく休憩します。再開は概ね11時10分とします。

○上別府議長

休憩に引き続き、会議を開きます。

次は、9番、井上志乃さん、お願いします。

【 9番 井上 志乃 登壇 】

○井上議員

宮之城中学校、3年、井上志乃です。本日はよろしくお願いします。

私が今回提案するイベントは、さつま町文化祭です。さつま町の町民が、音楽・美術などの芸術に触れる場を、さつま町の子どもたちや町内外の一般の人たちに提供するイベントです。小中高生はこのイベントの開催に協力すると同時に、招待される対象にもあります。また、この際に町内外の一般の方も来場できるようにし、さつま町の特産品や伝統工芸品のPRを行い、さつま町に人を呼び込む狙いもあります。感染症対策を考えて、密を避けるために数日開催を予定しています。小中高生は、平日に招待され、子ども全員がイベントに参加できるようにします。さつま町では、現在は新型コロナウイルスの感染対策で開催できていませんが、吹奏楽フェスタや子ども文化祭といった様々な芸術に関係するイベントが行われてきました。これらのイベントと今回提案するイベントの目的は芸術鑑賞で同じです。しかし、今まで行われてきたイベントとの大きな違いは、一つのイベントの中で芸術鑑賞とさつま町の宣伝ができることです。例えば、宮之城吹奏楽団の演奏を聞くのを目的に来場した人は、その目的を果たしつつ、さらにさつま町の魅力を知ることができます。逆に、さつま町の特産物を目的に来場した人は、そのついでに展示品を観賞したり、演奏を聞いたりすることができます。開催内容は、まず宮之城吹奏楽団、合唱団、各小中学校の部活動による演奏会です。次に、さつま町在住の一般の人、小中高生の作品などを中心に展示した美術展。そして、はちみつ梅、ちまき、たけのこといった、さつま町の特産物の試食・販売。そして、竹細工や薩摩切子といった伝統工芸品の展示・販売です。イベントの提案理由は4つあります。まず1つ目に、子ども達に芸術に触れさせ関心を持たせるためです。これがもっとも大きな理由です。2つ目に、芸術鑑賞やイベント開催の計画を立てることをとおして、子ども達が豊かな想像力や表現力、発想力を養うことができるからです。そして3つ目に、さつま町をPRするためです。4つ目に、今あげた3つの項目を一気に実現することができるからです。もちろん、このイベントにはメリットもデメリットもあります。まず、デメリットは授業がつぶれるということです。確かに授業はつぶれてしまいます。しかしそれ以上に、子ども達が得るものがあると思います。主なメリットは4つあります。1つ目に、芸術に重要性を感じている人が多くいるので、このイベントが良い機会となるということです。吹奏楽部の友達の話では、部員全員が演奏を聞いている人達に最高のパフォーマンスを届けたいと思うので心が一つになる。自分たちで最高の演奏ができた時やほかの団体の演奏を聞いたりすることは、感動を味わうことができる。そして、音楽が楽しいだけでなく、アーティストの言葉を聞いて勇気をもらうことが出来ると話していました。美術の先生は、国語・数学などと違い音楽や美術は感動を与えてくれるという大切な役割があると考えます。芸術鑑賞は、情操教育の中心でもある。だからそこ子ども達が芸術に触れる機会がもっとあっても良いと思うとおっしゃっていました。町内でもイベントが開催されて

はいますが、そもそも部活動や少年団、塾などで時間がなく、はじめはイベントに行きづらいと感じるので、普段はなかなか芸術鑑賞の機会がないという子ども達にとっても、良い経験となると思います。そして、このようなイベントのあるさつま町で育ったという誇りにもなります。そして、いずれさつま町に居たいと考える若い世代が増え、若い世代の流出を防ぐこともできるかもしれません。そして最後に、さつま町の魅力をさつま町内外の全員が再確認できます。私たちのさつま町ではスポーツが盛んで、宮之城中学校も数々の大会で優秀な成績を収めています。他にも少年団やクラブチームなどが活躍し、若い世代以外にもグランドゴルフを楽しむ年配の方々もいます。さつま町民の元気の源はスポーツとも言えるでしょう。スポーツが盛んなことは素晴らしいことです。これからの社会を担う私たちが、継承したいものです。その一方、さつま町はスポーツと芸術の普及度の差が大きすぎる。そして、過疎化が進む可能性もある。これは、さつま町の大きな課題です。そこで、スポーツではなく芸術の力を借りてみてはどうでしょうか。さつま町で、芸術のイベントを行い、さつま町はスポーツも芸術も盛んだという印象があれば、きっとさつま町を訪れる人は増えるし、さつま町の誇りにもなります。だからこそこのイベントは実施する意味があります。鹿児島県は、全国で唯一県立美術館がない県です。現在、鹿児島県にも県立美術館を建設しようという動きがみられています。鹿児島県全体で芸術に触れる重要性が見直されています。さつま町も子ども達に芸術に触れる機会を与えるイベントを開催し、改めて芸術の素晴らしさに気付いてほしいと思います。このイベントをとおして、さつま町の魅力を知り尽くす豊かな脳と心を持つ子どもの育成に取り組んでみてはどうでしょうか。以上で、発表（質問）を終わります。

【 9番 井上 志乃 降壇 】

【 原園 修二 教育長 登壇 】

○原園教育長

井上志乃さんからの御質問にお答えいたします。さつま町の新しいイベントについて、提案がなされたということであります。全体として、芸術文化を活かしたまちづくり、将来に向けたまちづくりという観点での質問であろうと思います。少し観点がズレるかもしれませんが、「まちおこし」ということで考えていきますと、まちおこしは現在、日本各地における非常に重要な課題だと思います。規模が段々ちいさくなってきていますので、どういったふうにして活力を生み出すかということに関して非常に大きな課題ですが、様々な点から取り組みがなされているわけですが、その中で井上さんは芸術に焦点をあててという提案ですね。これは非常に貴重な提案だと思います。御質問の中で、芸術に触れ合う機会をつくり関心を持たせる。情操教育、豊かな心を養うというようなくだりがありましたけれども、学校においてそれらを担っているのは、お話に合ったとおり音楽の授業であったり、美術の授業であったり、それから文芸という観点でいうと国語などもそうなると思います。俳句とか詩、小説とか。学校においてはそれらの教科学習でされた力を基にしながら、学習発表会であったり、文化祭であった

り、合唱コンクールであったりと、そういったことを行っているところでありますし、また宮之城中学校も先ほどスポーツが大変盛んだという話がありましたが、文化面という点でも、音楽コンクールであったり、絵画コンクール、作文コンクール、こういったところには学校としても積極的に参加をされているというふうに思っています。スポーツと比べてそういったイベントというのは数が少ないですので、なんとなくスポーツのほうが盛んで、芸術文化活動が少し落ちるような感じに受けるかもしれませんが、実はそうではないかもしれませんね。芸術文化という少し広い視点から、さつま町というのを見てみると、さつま町は大変豊かな芸術風土、文化的風土がある、そういう町だと思っています。昨年は、コロナ禍で中止になりましたけれども、例年、11月に行われている町の文化協会が主催するさつま町文化祭というものがありますね。日本舞踊、合唱、五つ太鼓の演奏など参加団体が非常に多くて30団体ぐらいの団体が町内から参加をされます。9時ぐらいから17時ぐらいまで、引切り無しにステージ発表がなされて、約700席ぐらいのホールがありますけれども、いっぱいになるほどの盛り上がりを見せています。作品展示も10団体以上あって、それぞれ個人の作品もあり大変充実した内容だと思っています。また、町民文化祭とは別に子ども文化祭というものもあります。これも五つ太鼓や日本舞踊、ピアノ演奏、器楽演奏、ダンスなどがあって、これも大変充実したステージ発表がなされています。それから提案の中にもありましたけれども、さつま町独自のイベントですが、宮之城吹奏楽フェスタというものもありますね。この宮之城吹奏楽フェスタというのは、町内にある学校の吹奏楽も参加しておりますし、当然宮之城吹奏楽団も参加をしております。宮之城吹奏楽団は県内でもあまり例のない吹奏楽団で、大変歴史もあって宮之城吹奏楽団の頭をとって宮吹という名前で県内外、全国にも名前を知られたこともあります。今でもファンがたくさんいます。鹿児島市内で行われるコンサートでも非常に県内から多くの方がつめかけてくる、そういう吹奏楽団でもあります。そういった活動もありますし、そのほかにもさつま美術展、町内の美術展をやっておりますし、霧島国際音楽祭のみやまふれあいコンサートinさつまといったイベントも行われているところです。さつま町の芸術文化活動の具体的な例を挙げればこの他に地区の文化祭もあります。それから、地域では郷土芸能の伝承を受け継いで活動を行っています。その発表の舞台などもあります。文化面においては、さつま町郷土史研究会や宮之城文化懇談会の皆さんが息の長い活動をずっと続けておられます。このようにしてみると、さつま町の芸術・文化のイベントは大変バラエティに富んでおり、またボリュームもあります。さつま町は芸術文化の素養のある人が多く、芸術・文化の底辺が非常に広い町であると思っています。人口2万人の町で実にたくさんの芸術文化活動が行われている、このことはさつま町民にとって誇れることだと思います。

今後は、今、町内にある多くの芸術・文化の活動をさらに組織的なものにして、言い換えれば、まとめて、先ほど提案があったように、いろんなかたちで再構成するといえますか、たくさんあるわけですからそういったものをもう少しまとめたりしながらグレードアップできないかというようなことです。今までのさつま町には無かったような芸術体験などができるような取り組みを進めていくということは、非常に大事なことであろうと思います。具体的な提案をしていただきまして非常に「なるほどな」と思いながら聞いているところでありますが、そ

ういった今あるたくさんの団体のものをまとめて再構成しながら、グレードアップしていく。そういったことは芸術をとおした新たなまちづくりというものにつながっていくのではないかなと思っています。具体的なイベントがありましたので、大変参考になったところではありますが、まだほかにもし考えていることがありましたら、教えていただきたいと思います。

【 原園 修二 教育長 降壇 】

○上別府議長

ただいま教育長よりお答えがありました。井上さん、御理解できましたか。
あなたから何かありますか。

○井上議員

さつま町に人を呼び込むためには、私が提案したような芸術鑑賞を気軽にできるイベントが増えると良いと思います。私は小さい頃からピアノを習っています。これからもピアノを続け、さらに美術展に足を運び作品の鑑賞をするなど、芸術がもたらす感動や楽しさを味わい、自分の財産にしていきたいと思っています。その際に友達に声をかけ、一緒にコンサートや美術展に行くなど芸術の素晴らしさを共有していきたいと考えています。なので、町内に気軽に芸術鑑賞を行えるようなイベントが増えると良いと思います。さつま町が芸術に関心を持っているというアピールにもなりますし、さつま町やさつま町の周辺に住んでいる人たちにも興味を持って来場していただくことで、まちおこしにつながると考えます。

○永江社会教育課長

井上さんから大変、貴重な提案をいただきました。文化芸術と農業面の特産品の販売とかそういうイベントをやって人を呼び込むような施策ができないかということであると思います。そこについても教育長からありましたように、今後、検討をしていながら進めていきたいと考えております。

それと井上さんにはお願いですが、先ほど言いましたように学校、文化団体、町イベントがそれぞれありますので、是非自分のお友達などに声をかけて参加していただいたり、見ていただいたりするという機会を作っていただければ一番有難いと思います。よろしくお願いします。以上です。

○原園教育長

貴重な提案をしていただいていると思っています。私も井上さんと同じように、芸術に触れる機会を増やすことが非常に必要だと思います。井上さんが通っていらっしゃる宮之城中学校では、近年、合唱コンクールそれから校内いっぱいに美術作品を展示するアートギャラリーといいますが、ああいったものがなされて大変すばらしくて、中学校全体の文化芸術のレベルは向上してきているのだなと思っています。昨年度の文化祭は私も鑑賞しましたが、皆さんの

発表に大変感動しました。そして芸術や文化というものは、例えば先生方や大人から与えられるものではなくて、皆さん方が自分たちの手で作りだしていく、そういったものだということを実感したところです。宮之城中学校の皆さん方はそれを実践されていると思います。大変、素晴らしいことだと思います。私は芸術や文化というものは人の生活に潤いをもたらして、夢や希望を与え、人生を豊かにしてくれ、まちおこしの原点になる、底力になるもの、そういったものが芸術・文化活動であると思っています。井上さんの「芸術による、まちおこし」という観点からの提案というのは非常に大いに賛同するものであります。これからのさつま町、未来のさつま町の主人公となっていくのは、皆さん方のような若い世代の方々です。今、社会教育課長からもお話がありましたけれども、町としましてもまちおこし、文化活動、芸術活動に若い世代の方のアイデアや参加、そういったものをいただいて、協力していただいで一緒に町の活性化を図ればいいなと思っています。是非、協力していただきたいと思っています。

○上別府議長

以上で、井上志乃さんの質問を終わります。

次は、10番、田島有来さん、お願いします。

【 10番 田島 有来 登壇 】

○田島議員

宮之城中学校、3年、田島有来です。

私が提案したいことは、大きく2つあります。一つ目は、スクールバスの整備についてです。校区が広い宮之城中学校では、スクールバスが運行している路線があります。私自身、中津川線を利用しています。実際に利用していて改善してほしいことがあります。それは下校バスの出発時間です。その例として、15時25分に授業が終わった時、宮之城一大口線のバスは16時10分にバスが出ます。一方、乗る人が少ない中津川線や北原線、金山線は17時に出発します。1時間30分以上学校で待つことになります。バスまでの待ち時間が長い時、都合がいたら家族に迎えにきてもらっています。このような人が増えると、バスが通っている意味がなく、通学で家族に負担をかけることになってしまいます。宮之城中学校にはA校時とB校時があり、それぞれ帰る時間が大きく違います。バス通学の受験生や学校外での活動をしている生徒も徒歩通学生と同じようにスムーズに下校できるように、学校の下校時間に合わせてバスの時間を調整してもらうことはできないでしょうか。また宮之城一大口線以外のバスは、国道沿いがバス停になっています。学校からバス停まで歩いて下りないといけません。私自身、生徒会の活動や部活動で時間ギリギリに校門を出て、バス停まで走っていくことが度々あります。通学路には時計がないので、私のようにバス停まで走っている生徒がたくさんいます。安全面でも心配ですが、バスに乗り遅れて家族に迎えにきてもらうことを減らすために、宮之城一大口線のようにスクールバス全路線を学校内に乗り入れてもらうことをお願いしたい

です。しかし、バスが学校内に上がってくことに心配もあります。現在13台のバスが通学バスとなっているのですが、13台が同時に学校内に上がってくると渋滞が起き、徒歩通学生の安全面での心配もあります。問題解消のために時間ごとに上がってくるバスを決めるなどの工夫がなされれば、上手く回ると思います。

二つ目の提案は、宮之城中学校の環境整備についてです。宮之城中学校では車通学の人が非常に多いです。車通学に欠かせないのが、公衆電話です。本校には今、1台しか公衆電話がありません。多い時には20人以上の人が並んでいます。玄関前に設置しているのですが、靴箱で靴をとる人、公衆電話を使う人で、玄関前が大変込み合っています。先日、玄関から外に出るのに10分近くかかりました。携帯電話を持ち込むことが出来るようになってから、混雑が少し解消しました。しかし、全校生徒500人以上に対して携帯電話の持込み許可を取っている生徒はわずかなので、公衆電話1台では今後も混雑が解消される見込みがありません。この問題解消のために、公衆電話を追加で設置していただけないでしょうか。どうか御検討よろしくをお願いします。また、校舎の整備についてです。

新宮之城中学校が開校するときに増築された新校舎と既設の校舎があります。雨が降ると古い校舎は雨漏りがします。雨漏りしたところは、水浸しになって歩けない状態にまでなります。雨漏りがして天井の柄が変ってしまっているところも何カ所もあります。新校舎まで漏水が進んでいます。調べてみたら、雨漏りを放置すると老朽化が急激に進むことを知りました。また、部室前にある水道の水はけが悪く、常に水が溜まっている状態です。最近までオタマジャクシが大量発生していました。見た目も衛生上も良くありません。御存じのように、部活動では新聞に取り上げていただける成果を出し、また、それ以外の活動にもそれぞれが積極的に取り組んでいます。新宮之城中学校が開校し、4年目となりました。宮之城高校の時の施設をそのまま使っているところは、傷んでいるところもあるようです。一度、学校内の環境を見に来ていただき、改修が必要などところについて確認していただくことはできないでしょうか。本日は、宮之城中学校を代表しこの場に立たせていただきました。全校生徒が安全に、よりよく過ごすためによりしくお願いします。お時間をいただきありがとうございました。

【 10番 田島 有来 降壇 】

【 上野 俊市 町長 登壇 】

○上野町長

田島有来さんからの中学校の通学バスと環境整備の関係等についての御質問ですが、私からは1つ目の中学校のスクールバスの整備の関係等についてお答えさせていただきます。環境整備については、教育長から答弁をいたします。

現在の通学バスの運行形態につきましては、中学校が開校する数年前から何回も関係者で話し合いをしてきたところであります。さつま町では、平成24年度に買い物や病院への通院に困っている高齢者などの交通弱者を支援する対策として、さつま町地域公共交通網形成計画とい

うのを策定しまして、さつま町の市街地へ低料金でバスやタクシーが利用できる乗り合い自動車の運行を開始したところであります。

現在、生徒の皆さんが利用しているバスにつきましては、一つ目に、中学生の通学優先バスであること。

二つ目に、高齢者等の買い物や病院通いを支援するためのバスであること。

さらには、さつま町と隣接市をつなぐ民間バスを維持、存続するために利用促進を図っているバスということになります。

バスの運行にあたりましては、毎年、町から多くのお金も支出をしながらバスの維持を図っているわけですが、子どもから高齢者まで多くの町民の皆様を支援するための総合的な交通政策として取り組みを進めてきているというところであります。御質問の宮之城中学校専用のスクールバスの整備の関係につきましては、これまでも中学校の先生方や保護者の方、中学校運営協議会からも継続して要望が出されているところであります。また、町の6月の定例議会の中でも議員さんから通学バスに対する御質問もあったところであります。また、一般の住民の皆様方からもバス停付近の安全対策や交通渋滞など、様々な御意見や御要望も伺っているところであります。中学校の通学優先バスも運行から4年目を迎え、様々な問題、課題があるところでございます。田島さんからもありましたように、いろんな課題もあります。そこで、これまでの実績や現状を分析しながら、スクールバス化についても教育委員会をはじめ中学校とも協力をしながら、協議会での検討・協議を行いまして、安全で安心して生徒が登下校できる環境づくりに努めていきたいと考えているところであります。

そのようなことで、私からの答弁とさせていただきます。先ほど、学校の環境の御質問もありましたけれども、これについては私も実際学校に足を運んで、見てみたいと思っておりますので、そのようにお考えいただければと思います。

【 上野 俊市 町長 降壇 】

【 原園 修二 教育長 登壇 】

○原園教育長

続きまして、公衆電話の問題が出ましたので、そちらから回答させていただきたいと思いますが、現在、宮之城中学校には公衆電話が1台設置され、少ないということですね。近年、携帯電話やスマートフォンの普及により、公衆電話の利用は大きく減少して、街中でも公衆電話を見かけることが少なくなってきました。一般の公衆電話は今後、台数を現在の3分の1に減らす。災害時だけ利用できる災害公衆電話を増やすことというような計画があるようです。これは、公衆電話の利用実態です。どれだけ使われているかというようなことや、災害時の通信確保の重要性等のアンケート結果に基づいて、こういう方針が出されたと聞いております。このように現在の流れとしては、公衆電話を減らしていこうという流れの中にあります。そういう中で、学校に増やすということについては、なかなか難しいところがあるかもしれません。

今、増やしてほしいということでありましたが、このように増やすことが難しい状況がありますので、期待に沿えない回答になったかもしれませんが、公衆電話1台を今、どのように使っているのか。公衆電話の使い方について、生徒会の役員ということでしたので、生徒会で話合いをなされているか、そこらへんをこの後、雨漏りについての答弁の後で、少しお聞かせいただければと思います。

続きまして学校の環境整備の問題ですが、町内に今、8つの小学校と1つの中学校がありますが、令和4年度、本年度新たに鶴田小学校が開校し、柏原小学校は現在、大規模な校舎改造工事を行っています。残りの6小学校と1中学校もですが、施設の老朽化が進んでいるということから、児童生徒の安全の確保や教育環境の充実を図るために、教育委員会では平成31年2月に策定をしました、さつま町立学校施設等長寿命化計画というものに基づいて、学校施設の大規模改修等の整備を計画的に進めているところです。学校施設の修繕等については、町の毎年の予算にも限りがあるため、修繕箇所等については、各学校からの要望があった修繕箇所について緊急性や安全性を考慮しながら、優先順位をつけて修繕をおこなっております。また、大雨や台風などによって、突発的な学校施設の修繕や倒木、予期せぬ事態に対応した救急対応も行っているところです。御質問の校舎の雨漏りについてですが、雨漏りは施設の腐食の原因になりますので、天井ボードの落下など危険性が高いですので、優先的に対処するようにしております。学校や体育館・トイレや部室など雨漏りを発見した場合は、まず先生に連絡していただき、こちらに届けていただくようにしてください。先生方も見て気付いておられるかもしれませんが、皆さん方から連絡があれば、すぐにこちらに届きますので、そうすれば現場を見に行き、対処を急ぐようにしております。早急に対処したいと思います。雨漏りの規模が大きい場合があるかもしれませんが、そういう時は原因調査、あるいは修繕にかかる費用などの詳しい調査を専門業者に依頼するために、時間が少しかかる場合もあるかもしれません。また学校には毎月安全点検というものをお願いしております、ガラスの破損箇所であるとか、ドアが閉まらないとか、窓が割れている、雨漏りをしているなどは、その都度、毎月報告をいただくようにしております。教育委員会でも大概のところは理解（把握）をしているつもりです。写真を付けて送ってもらっているのを見ていますが、もしかしたら今おっしゃったようなところが（報告）漏れている部分があるかもしれません。そういったところがあるかもしれませんので、学校の先生とも連携をしながらお伝えしていただければ、また速やかに対応ができるのではないかと思います。非常に良い状態の中で中学校は勉強も運動も頑張っていると思っています。安心して、安全な学校生活が送れるように、学校と連絡を取りながら環境整備についても一生懸命取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【 原園 修二 教育長 降壇 】

○上別府議長

町長と教育長からお答えいただきました。田島有来さん、御理解できましたか。

それでは、お二方から質問があった件について、田島さんからお答えできますか。

お願いします。

○田島議員

公衆電話については、基本的なことです、「順番を守る」「長電話はしない」「一度でなければ、後ろに並んでいる人がいた場合、譲って自分が後ろにもう一度並ぶ」などのルールを決めています。しかし、ルールを守っていても公衆電話一台では解決できない問題もあるので、もう一台欲しいという要望を出しました。

○原園教育長

現状をお聞きしましたので大方理解したところですが、一台しかないということが非常にネックになっているということですよね。使う人が殺到して、列ができるということのようです。先ほど申しましたとおり、なかなか公衆電話の設置については、流れというものが廃止をしていく方向に国全体でなっていますので、難しいところではありますが、公衆電話以外で設置できる電話機がないかということなども学校とも連携をしながら調査・研究してまいりたいと、何とか改善できないかと思いますが、簡単にはなかなかいかないので、時間がかかるのではないかと思います。今の段階で、皆さんにできること、今1台しかない現状の中でどういふふうにしてやればいいのか、ということについてはまた努力が必要だろうと思いますので、（教育）委員会もそういったところについては理解しておりますので、皆さんと協力しながらできたらいいなと思っています。今の利用の仕方の現状というものを、もう少し分析をしていただいて、例えば今ルールのことをお聞きしました。こういったルールを設けていると。例えば、電話の利用が混雑するのは毎日なのか、雨の日だったり、午前で帰る日だったり、特定の条件が揃った日に混雑するのではないかと思います。その分析をしていただくこと、それから多い時で何人ぐらい利用するのか。並ぶということでありましたが、何人ぐらい並んでいるのでしょうか。どういう要件で電話をしているのか。ほぼ同じような要件で、たくさんの方が電話しているということであれば、方法が考えられるかもしれませんね。そういったところも一緒に分析ができればと思います。利用する人、かなりたくさんいると思いますが、不特定多数なのか、ある程度メンバーが固定しているのか。大体同じような人が、事情があって利用しているのか。特別にその人だけの手当というか、できる方法があるかもしれませんね。そういったことなども、今すぐ簡単には（公衆電話も）増えないので、今の現状の中で何ができるのかということを、生徒会の皆さん方と、先生方と相談していただいて、教育委員会も中に入って、検討ができれば・・・知恵を出し合っていければいいなと思っています。田島さんの発表を聞きながらそう感じたところです。今の宮之城中学校の現状を見てみますと、4年前に新生中学校になりました。今、4年目を迎えているのですが、再編をされた当初から生徒の視点を大事にして、校則の見直し等も行われており、生徒会も中心になって見直しに参加しています。こうした取組もあって宮之城中学校では、一定のルールを作って例えば携帯電話の学校への持込み可とか、なかなか県下でも取組の例はないです。非常に先進的だと思います。それがきちんと守られています。ガイドラインといっても、腕時計の使用というのもガイドラインに

定められていますね。皆さんがきちんと守ってくれるから、そういったことが出来る環境にある。できる状態に宮之城中学校があると思います。生徒会の役員ということでお聞きしましたが、生徒会は学校生活を送る上での問題点や課題など、自分たちで改善したり、解決したりすることができるのです。先生たちの手を借りないといけないこともあります。自分たちで話し合って何かできることがあるかもしれません。生徒会を語る時によく言われることですが、それは「自分たちで決めて、自分たちで守る」ということです。所謂、自治活動。自治の精神。そういったものを中学校のうちから付けていく。それから諸問題の解決、いろんな身の回りにいろんな問題が出てきます。そういったものを解決するなかで、自分たちで「こうしたらいいのではないか。」とルールを決めて、そのルールを自分たちで守っていく。ということが非常に必要。今、ルールがありますが、学校の公衆電話のルールも完全に守られているかどうか、あるいは守られていない部分があるとすれば、どこに問題があるのか。あるいは今のルールを新たに改正する必要があるかどうか。そういったことも含めて検討して、そういったことは学校の先生方を通じて私たちにも教えていただければと思います。田島さんの今回の質問をきっかけとして、また宮之城中学校の生徒会も前向きに動き出してくれるということを期待しています。

○上別府議長

田島さん、よろしいですか。今後、生徒会活動に反映してください。

以上で、田島有来さんの質問を終わります。

次は、12番、東千鶴子さん、お願いします。

【 11番 東 千鶴子 登壇 】

○東議員

私は求名の東千鶴子です。私の思いをお話したいと思います。よろしくお願いいたします。

私は若い頃から歴史に興味を持ち、町の生涯学習講座で歴史の講座を五、六年受講しました。むかしの話を聞くと心を動かされました。

また、私は永野に生まれ育ったので、永野金山に関心を持ち、永野ウォーキング大会に参加したり、サロンで見学に行き「さつまガイド」の説明を聞いたこともあります。実は、四、五日前にも金山に行く機会があり、説明を聞いてとても感動いたしました。それから旧薩摩町郷土史で金山のことを調べて、関心を持ったところを書き取り、自分だけの歴史の本を作り、時々読んでいます。

さて、今年の2月の南日本新聞に「やれ掘れ・まだ掘れ、忘れの黄金郷 山ヶ野金山」の記事が載り、7月には、「国見金山跡知って」の記事が載りました。2つの記事を読んで、現地に行ってみようと思い立ちました。夫と金山ガイドマップを持って、軽トラックで2回探索に出かけました。

1回目は山ヶ野金山の入口付近を探索し、人家の少ない狭い道を進みながら金山奉行所跡や

ポール・オジェ居住地跡、御座所跡などを確認することが出来て嬉しかったです。

2回目は山ヶ野金山の西側を探索しました。金山ガイドマップを見ても道が分からず、道路清掃をされていた人に教えてもらい、山の中に入っていくと杉やヒノキなどの大木が立っていました。ゆっくり進んでいくと山ヶ野金山を発見された島津久通公である徳源様を祀ってあった徳源社跡を見つけました。文字のはっきりしない石碑や鳥居の一部が残っていました。行ってみたかったところだったので、嬉しくてお参りしました。そのほか、公道の入口の跡、建更の跡、直掘り口の跡なども確認できて、とても感激しました。そうして、この後国見金山へも行ってみました。永野金山から左手に九郎太郎川を見ながら登って行きました。段々道幅が狭くなり、頂上付近で川の向こう側に廃屋や石垣などが見えました。そのまま進み、湧水町の栗野図書館へ行き、担当の人に金山の歴史を教えてもらいました。一部紹介します。

一つ、国見金山は永野金山の一部として管理されていた。

一つ、薩摩藩主島津斉彬公がこの山に来られて、頂上から眺められたことから国見岳と呼ばれるようになった。ということでした。

あちこち金山を探索してわかったことは、歴史はもちろんのことですが、それぞれの金山は一つの金山であって、さつま町・霧島市・湧水町の3つの自治体に関係していることでした。少し驚きましたが、金山のいろいろなことを知ることが出来て、とても嬉しかったです。しかし、その一方で金山の史跡が山の中にあたり、案内板だけであたりして、今にも消えてしまいそうな状態になっているのを見て、今後のことがとても不安になりました。そこで、再度新聞の記事を読み返してみました。そこには江戸時代は、山ヶ野を中心に栄えた。明治以降は、永野を中心に栄えた。本来は同じ金山である観光資源や学習教材として、様々な活かし方があると思う。後世にどう伝えていくか忘れのままでほったいない。と書いてありました。

「そうだな」と思いました。以上のとおり、取り止めのない話をしましたが、経験・体験をとおして素朴な二つの疑問を持ちました。それは1つ目、3つの自治体で金山のことについて話合われたことがあるのでしょうか。2つ目、さつま町は金山の歴史を後世の人達にどのように伝えていこうと考えていらっしゃるのでしょうか。よろしくお願いします。

【 11番 東 千鶴子 降壇 】

【 原園 修二 教育長 登壇 】

○原園教育長

東千鶴子さんから「永野金山」について、御質問をいただきました。御質問の中の、永野金山の新聞記事は、今年の3月頃に連載された内容だろうと思います。この質問をいただきましてから、探してもらいまして、新聞記事を私も読んでみました。大変、興味惹かれる内容だと思います。今、お話にありました、国見金山について、私の知識が乏しくて今初めてお聞きしたところです。

記事では本町と隣接する霧島市横川町、湧水町の3自治体にまたがる「山ヶ野金山」と紹介

されております。

御質問の1番目の「金山のあり方についての話し合いについて」ですが、霧島市横川支所とは、本町の担当者レベルで観光や文化面における情報交換や協議を行ったことはありますが、それ以降、霧島市との間で金山に関する話し合いは行われていないところであります。

今後の金山のあり方については、文化振興、観光振興の面からもさつま町、霧島市と連携を図ることが必要ですが、山ヶ野金山地区住民の皆様の御意向もあると思いますので、霧島市の関係部署にも相談をしながら、慎重に検討していきたいと考えています。また、永野金山とその周辺の土地等のほとんどは、個人の所有物であり、現在、海外の企業による金の採掘のための事前調査が行われているという情報もあります。金山がどのような形がいいのか、所有者の意向を尊重することも町としては大切なことであると思っております。

二つ目の「金山の歴史を後世にどのように伝えていくか」についてであります。金山を後世に伝えていくためにこれまでも町や永野区、その他の団体による様々な取組が行われてきております。私が今ここに持ってきておりますが、黄金の郷古の口マン山ヶ野金山、永野金山の歴史単本、当然御存知だと思いますが、こういったものを作っております。それから、西郷菊次郎と黄金の郷というもの、これも御存知だと思います。これも非常に力作といえますが、大変力が入った資料であります。このようなものを作っておられます。それからDVDもありますし、最近の活用状況等も分析して、最近、日の目を見ていない部分もありますので、活用状況等も分析をして、有効な活用方法を検討していくことが大切だと思います。

また、永野区では、以前は永野ウォーキング大会を開催されておりました。金山史跡巡りでは、永野小学校の児童が語り部として活躍してくれていました。金山に関わる活動を熱心に取り組まれてきたという歴史があります。

今後につきましても、学校での金山学習などの郷土教育の推進や、永野地区で行われている活動や文化財ボランティアの皆様のお力をお借りしながら、後世にしっかりと伝えていく努力をしていきたいと考えております。

私たちにとりまして、永野金山は後世に伝えていくべき貴重な歴史遺産であります。先ほど紹介されました新聞記事ですが、「「忘れ」のままでほったいない」ということが最後に出ていますが、まさにそのとおりだと思います。

金山はさつま町では「永野金山」、霧島市では「山ヶ野金山」と呼び分けていますが、御指摘もあったとおり、本来は同じ金山、一つの金山です。金山の歴史を残していくためには、霧島市との連携という視点も加えながら検討していくことも必要なことだと考えています。

【 原園 修二 教育長 降壇 】

○上別府議長

ただいま教育長からお答えがありました。東さん、まだ御質問がありますか。

○東議員

ありません。

○永江社会教育課長

先ほどありましたように、二点の質問については教育長がお答えになられたとおりです。二つ目の後世の人達にどのように伝えていくのかということで、学校の関係では「さつまかるた」とか、「さつま学」の中でそれぞれの、5番目の中根さんのなかでも魅力あるたくさんの人に（さつま）町を知ってもらいたいということの観点のなかでも、金山だけではなく、宗功寺、永野金山、金吾様踊り、いろんな文化がありますので、そこを含めながら若い方々への史跡巡りのPR活動をしていきながら、当然（町）外向けのPRも必要かと思うのですが、できれば足元の若い方々小学校・中学校を対象に「そういう歴史的な物がある」ということで、史跡をめぐっていただきたいと考えております。

○上別府議長

よろしいですか。

以上で、東千鶴子さんの質問を終わります。

以上で、通告に基づく一般質問を終わります。

本日の日程は、全て終了しました。閉会にあたり御挨拶を申し上げます。

皆さんの素朴な質問、前向きな提案や問題提起など、それから直球の質問、さつま町が大好きだという思い。皆さんの夢がいっぱい溢れた「あなたも一日議員」だったのではないのでしょうか。私たちのふるさとさつま町のために、私たちは何ができるのだろうかという思いを、皆さんのおかげで改めて実感させていただいたのは、私だけではなく、ここに参列されている皆さんも同じような実感を抱いたのではないかと思います。きょう参加していただいた皆さんの思いが、これからのさつま町づくりに大きく貢献していきますように、私たちも姿勢を正して取り組んでいかなければならないと思ったのと同時に、行政に取り組んでいらっしゃる皆さんにも是非、そのように進めていただきたいと思ったところです。きょうは、朝早くからお昼まで長い時間緊張した時間が続いたと思いますが、おかげで有意義なあなたも一日議員になりました。本当にありがとうございました。

協力いただきました町長、教育長をはじめ、各課長の皆さん、執行部の皆さん、本当にありがとうございました。以上をもちまして「あなたも一日議員」を閉会いたします。

午後0時10分 閉会